

宮崎公立大学「開放授業」科目一覧（平成21年度前期）

平成21年度前期は16科目を開放します。別紙の申込書に受講を希望する科目をご記入ください。

＜申込上の注意＞

① 授業時間は、次のとおりとなっています。

(午前) 1時限 8:50~10:20 2時限 10:30~12:00	(午後) 3時限 13:00~14:30 4時限 14:40~16:10 5時限 16:20~17:50
--	--

② 受講者の選定は「抽選」による場合と、「受講希望理由」による場合があります。科目一覧に選定方法が記載してありますので、ご確認のうえ、お申し込みください。なお、受講希望理由は、申込書に記入してください。

＜開放授業科目＞

1	現代英文法
【曜日・時限】 金曜日・1時限目 【募集人員】 2名 【教員名】 福田 稔 教授 【講義内容】 これまで学んできた学校英文法の規則や事実、受講生が疑問に思った英文法の謎に対して見直したり、答えを与えることが、この授業の大きな目標である。次の2つのトピックを扱う。(1)前置詞・方位副詞の使い分け。第2回～第8回では、at, in, onなどの場所や方位を意味する英語の前置詞・方位副詞の根本的な意味と使い分けを解説する。(2)重要な英語の品詞。第9回～第11回では、(i)不定詞と動名詞、(ii)形容詞、(iii)名詞と冠詞について解説をする。 【受講生へのメッセージ】 根本的な疑問を投げ掛けることが学問の世界では重要である。特に、この授業は、受講生の皆さんがこれまで抱えてきた英文法の疑問を遠慮なく出して頂いて、教材として採用していきたいと考えている。 【選定方法】 抽 選	

2	宗教学
【曜日・時限】 金曜日・1時限目 【募集人員】 5名 【教員名】 中別府 温和 教授 【講義内容】 宗教は文化の中心に位置し、その文化のある部分を濃くある部分を薄く色づけています。政治、法、芸術を含めた人間のすべての要求は、かつては宗教的なもののなかで生まれ育まれてきました。太古から人間の意識と行動に深くかかわってきた宗教が、人びとの現実の生活のどこにどのようにしみだして息づいているかを具体的にとらえていきます。 講義のねらいは、宗教と宗教的な人格についての基本的な知識を身につけることです。 【受講生へのメッセージ】 「世には往々何故に宗教が必要であるかなど尋ねる人がある。しかしかくの如き問は、何故に生きる必要があるかという同一である。」(西田幾多郎『善の研究』213頁) このことばの意味するところを深くゆっくり探ってゆきたい。 【選定方法】 抽 選	

3	国際協力論
【曜日・時限】 木曜日・4時限目 【募集人員】 5名 【教員名】 堀口 正 准教授 【講義内容】 ボランティア経験のある方は、その経験を通じて、どのような国際協力が可能なのかを、ボランティア経験のない方は、ある方の意見や文献などを通じて、どのような国際協力が可能なのかを一緒に考えたいと思います。 【受講生へのメッセージ】 まったく国際協力の知識がなくてもかまいません。 【選定方法】 受講希望理由書	

4	東南アジア文化論
【曜日・時限】 木曜日・3時限目 【募集人員】 5名 【教員名】 東 賢太郎 講師 【講義内容】 本講義では、東南アジアの文化的多様性と国際関係という2点に注目する。受講生各自が、自身の東南アジア像を再認識し、新たな問題関心を発見することが目標である。講義は映像資料なども交えながら、できるだけ具体的な事例をもとに進めていく。 【受講生へのメッセージ】 これまで自分が抱いていた東南アジアについてのイメージを再認識し、新たな東南アジア像を受け入れるという2つの知的実践に挑戦してほしい。その過程から、さらなる東南アジアへの問題関心が発生することを期待している。 【選定方法】 抽 選	

※講義の日時・内容は変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。

5	中国文化論
【曜日・時限】	木曜日・4時限目
【募集人員】	5名
【教員名】	田宮 昌子 准教授
【講義内容】	<p>“中国”は古い文明国であるだけでなく、21世紀の世界秩序形成に深く関わる勢力です。国際文化学科に学ぶ学生ならば、中国について特別な知識がなくても、新世紀の国際社会における主役の一つとしてその存在感は意識しているでしょう。しかし、実際の中国認識は概ね漢文の授業や漫画などで触れた「古典中国」と、マスコミ報道で触れる改革開放後の「現代中国」に分裂しているようです。ワールドニュースを賑わす外交交渉や中国市場でのビジネスチャンスに目を引かれる向きには、「古典中国」は今現在とは接点のない死んだ世界に映りがちであるし、一方「古典中国」愛好者には、いま目の前にある「現代中国」は自分の愛する世界とは容易に結びつかない取っ付きにくい存在に見えがちです。しかし、これら二つは有機的な繋がりを持った不可分の一体です。本講義の狙いは、この隔絶を埋めること、国際人として活躍すべく本学に学ぶ学生に対し、現代国際社会を形成する一要素としてのトータルな中国理解を培うことを狙いとしています。</p> <p>【受講生へのメッセージ】 本講義は上記のような趣旨のもと開講していますが、具体的内容や重点は毎年異なります。近年は二つの中国—「古典中国」「現代中国」の繋がりを日本が歴史的に中国と持ってきた関係と絡めながら見ています。日本は中国とどう向き合ってきたのか、日本にとって中国はどのような存在であったのか、この地域に開かれるべき相互関係はどのようなものであるのか…このような一連の問いを持ちながら、見ていきたいと思えます。</p>
【選定方法】	抽 選

6	歴史学
【曜日・時限】	金曜日・2時限目
【募集人員】	5名
【教員名】	大賀 郁夫 教授
【講義内容】	<p>歴史学はどのような方法によって、何をどこまで明らかにすることができるのだろうか、歴史を知ることはどのような意味があるのだろうか。人間がすべて同じ考え方・感じ方をすることはあり得ないが、だからといって自分勝手に歴史を自由に認識しても良いということにはならない。歴史を認識するためには、人類が過去から長い間培ってきた「経験的根拠」に依らなければならないのである。この講義ではそのような人類の「経験的根拠」に基づいて、歴史を正しく認識する方法を学ぶことを目的とする。</p> <p>【受講生へのメッセージ】 E・H・カーは、歴史は「現在と過去との間の尽きることを知らぬ対話」といいます。過去と真剣に向かい合い歴史と対話することで、「正しい」歴史認識について考えてみましょう。</p>
【選定方法】	受講希望理由書

7	メディア論
【曜日・時限】	火曜日・1時限目
【募集人員】	5名
【教員名】	梅津 顕一郎 准教授
【講義内容】	<p>私たちの社会生活とメディアのかかわりについて、基本概念、現状、未来の三部構成で考えてゆきます。第一部ではチャンネル、記号、エンコード、デコードなど基本的なタームを紹介し、メディアとは何であるかについて定義します。第2部ではM. マクルーハンの「ホットなメディア／クールなメディア」という考え方を手掛かりに、インターネット、携帯電話、テレビなど、現在の私たちの社会生活の中のメディアについて考えてゆきます。第三部では、今日の情報社会という文脈から、これからのメディア／人間関係について模索します。</p> <p>【受講生へのメッセージ】 大学の勉強は好奇心が出発点。基本的には楽しい講義にしたいと考えています。</p>
【選定方法】	受講希望理由書

8	コミュニケーション特殊講義
【曜日・時限】	水曜日・2時限目
【募集人員】	5名
【教員名】	山本 明夫 教授
【講義内容】	<p>日本における放送の歴史80年間を振り返る。ラジオの時代の25年間、テレビの時代の55年間をテキスト（テレビ見たまま～公共放送はいま）と資料映像などを使って説明する。</p> <p>また、折々に放送されたドキュメンタリーや歴史番組などを視聴し、現在の私たちの抱える課題を認識するとともに、今後どのように課題に取り組んでゆけるのかを考えてみたい。</p> <p>【受講生へのメッセージ】 講義を通じて学生と私との間で講義内容のキャッチボールを行います。レポートも講義時間内に適宜提出してもらいます。このため全日程の出席が大原則となりますので、その旨しっかりと認識してください。</p>
【選定方法】	抽 選

※講義の日時・内容は変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。

9	マーケティング・コミュニケーション論
【曜日・時限】	金曜日・2時限目
【募集人員】	2名
【教員名】	森津 千尋 助教
【講義内容】	本講義は、広告・ドラマ・観光旅行・スポーツなどポピュラーカルチャーについて、どのようにマーケティングが行われ、人々に受容されてきたのかについて考えていきます。最初に基本的なコミュニケーション論・マスコミュニケーション論について学び、その上で、メディアを通してのマーケティング、イメージの「消費」がどのように行われているのかについて事例をあげながら説明していきます。
【受講生へのメッセージ】	日常生活の中で、メディアを通して、どのように大衆文化マーケティングが行われているのかについて考えていきます。講義内容によっては1コマで終わらない場合もあるので、講義スケジュールは若干変更する場合があります。
【選定方法】	抽 選

10	メディア表現論
【曜日・時限】	金曜日・2時限目
【募集人員】	5名
【教員名】	阪本 博志 講師
【講義内容】	この講義は、戦後——とくに1950-60年代——の大衆文化におけるメディア上のさまざまな表現（具体的にはたとえば、皇太子ご成婚報道、流行歌「こんにちは赤ちゃん」、ベストセラーとなり映画化された『愛と死をみつめて』、ほかをあつかいます）を手がかりに「戦後社会」の姿を考えていくものです。われわれの生きているこの社会の成り立ちについて、身近なマスメディア上の素材を通して考えていければと思います。
【受講生へのメッセージ】	この授業であつかう時代や文化現象を直接経験された方、そのあとから生まれた講師や学生が、ともどもに学びあう場にしていければと思っています。また、この授業であつかう時代を実際に経験された方からお話をうかがうことができましたら幸いです。
【選定方法】	受講希望理由書

11	ジェンダー論
【曜日・時限】	木曜日・5時限目
【募集人員】	3名
【教員名】	四方 由美 准教授
【講義内容】	当たり前のように見てきた日常生活や、毎日見慣れた社会的風景も少し見方を変えてみただけで新鮮なものに感じられてきます。ジェンダー（社会・文化に規定された女と男のありよう）は、そんな見方（視点＝パースペクティブ）の一つです。ジェンダーは「中立的な」概念ではないため、「男女平等」と同義に理解される場合もありますが、本講義では「性別に関わる知」と定義し、ジェンダーの視点を用いて現代社会をとらえます。
【受講生へのメッセージ】	ジェンダーというカテゴリーはすべての人が帯びているものとなっているゆえに、本講義での議論はあなた自身を「切る」可能性があります。そのような経験の中から自分の思考を鍛えていきたい人の参加を期待します。また、参考文献を読み知識を深めるなど、積極的な参加を望みます。質問も歓迎します。
【選定方法】	受講希望理由書

12	コミュニティ心理学
【曜日・時限】	金曜日・2時限目
【募集人員】	5名
【教員名】	川瀬 隆千 教授
【講義内容】	コミュニティのさまざまな問題に対して、心理学の方向から光を当て、その解決に向けた方策を探り、具体的な解決策を提示して、コミュニティの人々とともに、問題解決のために行動するのがコミュニティ心理学です。講義では、コミュニティ心理学の目的・対象・方法について説明し、ストレス理論、危機理論など、適応困難の理論と事例について検討した上で、ソーシャル・サポート、システム論、行動理論など、適応促進のための理論を紹介します。
【受講生へのメッセージ】	受講生の皆さんには、コミュニティのことを考え、コミュニティの抱える問題を発見し、その解決のために行動してもらいたいと思います。身近なコミュニティをよりよいものにするには、自分自身が生きやすいコミュニティを作ることにつながります。
【選定方法】	抽 選

※講義の日時・内容は変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。

<授業時間>

(午前)	1時限	8:50~10:20	(午後)	3時限	13:00~14:30
	2時限	10:30~12:00		4時限	14:40~16:10
				5時限	16:20~17:50

13	国際関係論
【曜日・時限】	木曜日・4時限目
【募集人員】	3名
【教員名】	田中 宏明 教授
【講義内容】	<p>本講義の目的は、「グローバル化する世界」とはどのようなものなのかを理解することにある。はじめに、現代のグローバリゼーションがなぜ起こってきたのか、そしてそれを制度化するグローバル・ガバナンスとは何かについて考える。さらに、グローバリゼーションやグローバル・ガバナンスに対する対抗するものとしてグローバル市民社会について検討する。</p>
【受講生へのメッセージ】	<p>グローバリゼーションによって「新しい世界」が誕生しています。グローバル化する新しい世界とは何かをいっしょに考えましょう。そして約4ヶ月という講義期間で、世界を知的に旅してみましよう。</p>
【選定方法】	受講希望理由書を優先し、多数の場合は抽選

14	社会学
【曜日・時限】	火曜日・1時限目
【募集人員】	5名
【教員名】	倉 真一 准教授
【講義内容】	<p>社会学には「教科書らしい」教科書がなく、しかも他の社会諸科学（経済学や政治学、法学等）と比べて、何をやっているのかよく分からない、とも言われる。しかしこれは、人々がとり結ぶ関係、社会現象なら何でも考察しようとする社会学の性格に由来する「長所」でもあるのだ。講義では、社会学の「理論」や「方法」がどのように社会を読み解くのか、社会学的な考え方のヒントを是非つかんで欲しい。</p>
【受講生へのメッセージ】	<p>社会学をやることの第一歩は、とりあえず自分や世間の常識を一度は疑い、括弧に入れて、再検討してみることから始まると思う。そのための知的な好奇心や探求心を常に大切にしたい。</p>
【選定方法】	受講希望理由書でまず判断し、判断しがたい場合は抽選

15	比較政治学
【曜日・時限】	木曜日・3時限目
【募集人員】	5名
【教員名】	山口 裕司 教授
【講義内容】	<p>本講義のねらいは、世界各国と日本を比較しながら日本の特徴を理論的に知る視点を獲得してもらうことにある。日本政治の「特殊性」がどの程度妥当するのかを学問的に知るきっかけになれば幸いである。</p> <p>まず各国の政治制度がどのような特徴をもっているのかを示し、特定の制度と政治的経済的帰結との関係についての因果仮説を紹介し、日本における過去・現在の政治制度とそれがもたらす帰結を理論仮説に照らして検討する。</p>
【受講生へのメッセージ】	<p>日本の政治に関心があり、しかもそれを良くしたいと考えているみなさん。この講義を受講して、日本政治の未来と一緒に展望してみましよう。</p>
【選定方法】	受講希望理由書

16	行政論
【曜日・時限】	木曜日・4時限目
【募集人員】	5名
【教員名】	有馬 晋作 教授
【講義内容】	<p>国・自治体という行政の政策の歴史を振り返り、現在の行政が直面する課題について考えるほか、行政の仕組みを学ぶことにより行政運営が現在抱える課題について考察する。後半は、行政は法律に基づいて行われていることから、行政法の基本的な仕組みを学ぶ。以上により、市民として持つべき行政に関する基本的知識を学ぶことを目的とする。</p>
【受講生へのメッセージ】	<p>国・自治体の政策や行政運営の仕組みを学びます。難しい点があると思いますが、できるだけ分かりやすく講義を行い、今後、行政と接するときに役立つ講義内容としたいです。</p>
【選定方法】	抽 選

※講義の日時・内容は変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。

<授業時間>

(午前)	1時限	8:50~10:20	(午後)	3時限	13:00~14:30
	2時限	10:30~12:00		4時限	14:40~16:10
				5時限	16:20~17:50